特集

小樽築港で続いた〝不審死〟の真相

▲小樽築港エリアのランドマークとなっている「ウイングベイ小樽」

昨年は小樽運河が誕生100年を迎え、9月から12月にかけて数多くのイベントが行われるなど、小樽の街は祝賀ムードに包まれた。だが、その一方で、8月から12月の間に4件もの「不審死」が相次ぐという悲しいニュースもあった。

現場はいずれも、小樽築港にある大型商業施設「ウイングベイ小樽」周辺のごく狭いエリア内だ。偶然とはいえ、一部の遺体が発見されたときの特異な状況とあいまって、いっそう謎を呼ぶこととなった。背景には、どんな真相があったのだろうか――。

（フリーライター・内海達志）

現場は風光明媚な公園

大晦日が間近に迫った12月29日、4件の不審死の現場を歩いてみた。

小樽築港駅で下車すると「ウイングベイ小樽」までは連絡通路を歩いて3分ほど。ふだんの平日は閑散としているのだが、この日は買い物客で賑わっていた。

小樽築港駅の広大な貨物ヤード跡地に、「マイカル小樽」が誕生したのは1999（平成11）年3月。だが、わずか2年後に経営が破綻し、2003（平成15）年に「ウイングベイ小樽」として再スタートした。

ニトリ、イオンといった大型店のほか、個性的な店舗や映画館、ホテル、書店、レストラン、ファストフード店、携帯各社のショップ、さらにはホッカイドウ競馬の場外発売所まで、あらゆる業態が揃っており、娯楽施設が少ない小樽において、老若男女の市民が集まる数少ない場所となっている。

▲築港臨海公園。ベンチはブルーシートで覆われている

広い館内を小樽方面へまっすぐ進み、イオンを抜けて外へ出ると、右側の道路を隔てて、その先に裕次郎も愛した海が広がっている。かつてこの地にあった「石原裕次郎記念館」は2017（平成29）年に惜しまれつつ閉館になったが、小樽港マリーナには裕次郎の愛艇「ハレ・コンテッサ」が展示されている。マリーナにズラリと繋留されたヨットは圧巻だ。

小樽港マリーナを左手に望みながら、小樽築港駅方面に戻っていくと、ほどなく築港臨海公園に行き当たる。雪が積もった公園内に人の姿はなく、ベンチもブルーシートで覆われているが、冬以外は海風が心地よい市民の憩いの場だ。

運河周辺の喧騒とは無縁で、海の風景も素晴らしいのだが、観光客はほぼ目にしない。めぼしい観光スポットがあるわけではないので、さすがに築港までは足を延ばさないのだろう。

ここは人気の釣り場でもあり、シーズン中は岸壁で釣り糸を垂らしている人が目立つ。海面を覗き込むと、魚群をはっきり確認できるほどだ。

余談だが、筆者は一昨年の秋、ここで盗撮犯を警察に通報したことがある。20代とおぼしき男が、女子高生2人の正面に立ち、少し離れた位置からカメラの望遠機能を使い、明らかに短いスカートの奥を狙っていたのだ。不審者の存在に気付いた女子高生が怯えた表情をしていたので、筆者の友人女性が声をかけると、男は慌てた様子で足早に立ち去った。

彼女たちは、

「場所を変えても、しつこく近くに来て、ずっとスマホのカメラを向けられていたので、気持ちが悪かった」

と話していたという。

駆けつけた女性警官によれば、「（同一犯かはわからないが）ときどき怪しい男が出没する」とのことであったが、当時はこんな風光明媚な公園にも変質者が現れることに驚きを

▲裕次郎ゆかりの小樽港マリーナ

続きは『月刊クォリティ』本誌をご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
https://qualitynet.co.jp/koudoku/

○お電話でのお申し込みはこちらから
TEL 011-644-0101
（9:00 ～ 17:30　土日・祝日をのぞく）